

議事概要

日時：令和2年12月21日（月）15時30分～17時00分

場所：WEB会議

出席委員

北川座長、粟生木委員、櫻本委員、柴田委員、嶋村委員、竹田委員、竹ヶ原委員、田崎委員、田島委員、長谷川委員、松原委員

議題

1. サーキュラー・エコノミーに係るサステナブル・ファイナンス促進のための開示・対話ガイダンス（仮称）について
2. 自由討議

委員からの主な意見

■ ガイダンス全体について

- 企業がサーキュラー・エコノミーにどのように取り組めばよいか、全体像をとらえたガイダンスになっている。サーキュラー・エコノミーにどう取り組めばよいか悩んでいる企業が多いと感じており、そうした企業にも役に立つだろう。
- サーキュラー・エコノミーの機会に力点を置いた上でトランジションの概念をうまく取り込んでおり、海外に対して日本の考え方をきちんと発信できるものになっている。また、サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）や価値協創ガイダンスを踏まえ、横串を通しつつ作成しており、使い勝手が良い。

■ 開示及び対話のポイントについて

- 現状案の要旨に開示・対話のポイント一覧を付けることで、より分かりやすくなるのではないかな。
- 第一章で引用している政策資料の URL を注釈として入れてはどうか。また、英訳の際には海外向けに国内政策の補足をした方が良いと思う。
- p3 について、アウトカムの説明が箇所によって異なる。また、アウトカムという言葉は p11 のガイダンスの全体像の図中にも出てくる。図中では、アウトカムは実行の階層にあるのに対して、p3 では PDCA の階層で書かれている。座りの良いところに合わせてはどうか。
- p11 のガイダンスの全体像の図について、ガバナンスは①～③の階層にかかっていると理解。ガバナンスの定義 p30 をみると「～を着実に実行し」とあり、②と非常に密接な内容であるが、図中では②でガバナンスについて触れていない。図で重要な点のみを示したのであればその旨注釈を加えてはどうか。
- p17 の循環経済を実現する取組の属性について、Recycle と Renewable を分けた点については良いと思う。資源がループしている様子が見えるとさらに良い。
- p22 や p24 について、ネガティブ・スクリーンをこのガイダンスでどのように位置づけているのか。線形経済に係るリスクを有する企業・業種とは対話をせずにダイベストメントの対象と

する立場なのか。それとも、リスクを有する企業・業種であってもサーキュラー・エコノミーに貢献し、努力していれば評価する立場なのか。

- p32 の開示・対話のポイントのうち、ビジネスモデルの一つ目の項目について、本文では協力関係という言葉があるが、ここでは抜けているので追加してはどうか。モノの流れに沿ってステークホルダーと協力していくことがサーキュラー・エコノミーでは非常に重要である。
- p32 の開示・対話のポイントの内、価値観の三つ目の項目で、「株主価値と社会的価値の両立」という表現に違和感がある。株主価値の代わりに、企業価値あるいは経済価値、財務価値などとしてはどうか。
- p32 の開示・対話のポイントのうち、リスクと機会の二つ目の項目について、「足下のコスト」は英訳する際に表現が難しいので、精査してはどうか。
  - コストの観点も含めたリスクマネジメント、中長期での投資回収等の代替案があるのではないか。
  - コストは便利な言葉だと思うが、英訳に難しさがある。このビジネスモデルの中で採算が合うようになっていくなど、一歩踏み込んだ表現にしていくことが必要だろう。

#### ■ プラスチック資源循環分野の開示及び対話のポイントについて

- p39 の再生可能資源由来素材の利用を推進すれば、資源効率性の向上等の機会につながるという点、資源効率性を追求するには再生可能資源由来素材を使えばよいと読めるが、資源効率性を算出する際に、分子に再生可能資源を含めなくてよいということか。
- p46 の本文について、個別企業が、指標の種類についてプラスチック資源循環戦略や大阪ブルー・オーシャン・ビジョンなどを参照することはあり得ると思うが、目標の水準について参照することはないのではないのか。マクロの目標水準と個別企業の目標水準は必ずしも合致しない。たとえば「…国際的な文献等を参照することを推奨する。その際、採用される指標の種類についてはプラスチック資源循環戦略等の文献を参照することが考えられる」などに修正してはどうか。
- p46 では、企業価値を高めるための目標とあるが、p27 では、企業価値向上に向けた戦略の実行に関する道標との表現が使われている。目標という言葉に係る修飾文を統一してはどうか。

#### ■ 本ガイダンスの活用・普及促進について

- Enabler や Adopter を動かすことを考えた際、直接金融が及ばない主体も多い。地域の金融機関や間接金融に係る主体の役割も重要になるので、そうした方にも読んでいただくと良い。地域のリサイクル企業も自社の取組がこうした大きな枠組に繋がるとわかる内容だと思う。
- ガイダンスの普及を図る上ではアーリーアダプターにうまく使っていただき、広げていくことが重要だろう。非財務情報に日々触れている方にとっては基本的なことでも、その他の方には概念として新しく見える箇所もあると思う。本ガイダンスを丁寧に説明する機会を多く設け、本ガイダンスを理解頂くことが重要だと思う。
- 環境省が TCFD を活用した経営戦略立案のススメ～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ分析実践ガイド～を作成したように、実際に取り組もうとした時にどうすべきか、かゆいところに手が届く資料を付加的に作成いただくと良い。
- 来年の9月には PRI in person が東京で開催される予定。世界の投資家・金融機関に向けて、

日本のこのような取組を伝えることが重要と考えている。日本は2050年にカーボンニュートラルを目指すことを打ち出し、世界が注目している。英語版のガイダンスの作成を急いで欲しい。また、こうした取組を通じて日本に資金が入ってくることが重要だろう。

- 多様な非財務情報の開示フレームワークに関わる組織に対してこのガイダンスを発信していくことで、世界への露出を高められると思う。
- サーキュラー・エコノミー政策全体の横串も意識して欲しい。本ガイダンスは投資家と企業が基本的なステークホルダーになっているが、日本政府のサーキュラー・エコノミー政策全体の中の一つとして、本ガイダンスの位置づけ・役割を示して欲しい。また、サーキュラー・エコノミーに移行する上での留意事項が挙げられているが、留意事項の改善に向けどのような政策があるのか説明されると、投資家等からの投資が促進されるのではないかと。